

神戸大学主催の震災復興支援・災害科学研究推進室第2回シンポジウムに参加し 研究所の活動を紹介しました（2013/11/22）

テーマ：震災復興支援、大学の役割、ネットワーク構築
場所：神戸大学

「大災害における大学の役割～阪神淡路、東日本、そして南海トラフ対策へ～」と題して、11月22日に神戸大学でシンポジウムが開催されました。災害科学国際研究所からは、情報管理・社会連携部門の佐藤 健教授と泉 貴子特任准教授が参加し、「東北大による災害科学研究と国内外連携の推進」と題して、発表を行いました。発表の中で、佐藤教授が東日本大震災記録集の発刊、地震対策プロジェクトチームと災害対策推進室による取り組み、災害復興新生研究機構、災害研の特定プロジェクト研究などを紹介し、泉特任准教授が環太平洋大学協会（APRU）マルチハザードプログラムの活動、UNESCAP(国連アジア太平洋経済社会委員会)と共に開催した災害統計に関する専門家会合などの国際連携強化のための活動を紹介します。東北大学からは、震災復興担当の原信義理事もこのシンポジウムに参加され、東北大学と神戸大学との今後のさらなる連携強化に向け、福田秀樹学長や理事の方々との活発な意見交換も行われました。

東北大学のほかに、岩手大学、神戸大学、兵庫県、神戸新聞が、それぞれの研究成果、災害の経験から学んだこと、防災への取り組みなどについて講演しました。また、シンポジウムの最後に行われたフリーディスカッションでは、佐藤教授が登壇し、会場からの質問に答えると共に、災害における大学の役割について意見交換を行いました。

また、東北大学と神戸大学の発表の中で、アジア太平洋防災・レジリエンスネットワーク（APDR3）の取り組みに賛同し、日本の大学が中心となった関西・東北地域のネットワーク構築の重要性が確認され、今後、その取り組みを進めていくこととなりました。

